

実践例② 第6学年 社会科

1 小単元 戦争と人々の暮らし（大単元 日本の歴史）

2 目 標

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
日本がかつて戦争をし、国内外に大きな被害を出したことについて理解するとともに、写真・映像資料、年表等の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の特色、出来事や人々への関連や意味を多角的に考え、長い戦争に伴う国民生活や各方面への影響について調べたことを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現することができる。	日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦について、主体的に学習問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史を受け止め、国を愛する心情を養う。

3 小単元の構成

【中心概念】	【事実を基に獲得する知識】（授業のまとめ）	【具体的な事実】（用語）
<p>⑥ 国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終</p> <p>わった。</p> <p>国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終</p> <p>わった。</p> <p>国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終</p> <p>わった。</p> <p>国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終</p> <p>わった。</p>	<p>◆空襲で多くの人々が犠牲になり、東京をはじめたくさんの都市が大きな被害を受けた戦争を日本が戦ったこと。①</p>	<p>東京大空襲・鹿児島空襲 鹿屋空襲後の様子</p>
	<p>◆日本が国内の不況を打開するために中国大陸に進出したことから、国際社会で孤立していき、中国との戦争が始まったこと。</p> <p>◆日本がアメリカ・イギリスとも戦争を始め、戦域を広げていったこと。資源の不足と戦力の違いや、占領地で起こった抵抗運動によって、日本が徐々に追い込まれていったこと。②</p>	<p>満州事変・満州国 国際連盟からの脱退 日中戦争・鹿屋会議 第二次世界大戦 太平洋戦争・真珠湾攻撃 抵抗運動・アメリカ反撃</p>
	<p>◆国が戦争をおし進めることに総力をあげていった結果、人々の暮らしが物心両面で大きな制約を受けるようになっていったこと。③</p>	<p>物資不足・国家総動員法 隣組・報道制限</p>
	<p>◆学校では戦争遂行のための教育が行われ、家庭でも戦争の影響が見られ、子供の生活にも戦争の影響があったこと④</p>	<p>教科書・戦争訓練・協力 軍国主義・学徒出陣</p>
	<p>◆アメリカ軍の圧倒的な航空力によって、日本各地が空襲を受け、大きな被害を受けたこと。</p> <p>◆沖縄戦、原爆投下によって、多くの命が奪われ、満州や樺太などでも多くの人が犠牲になり、戦争が終結したこと。⑤</p>	<p>空襲・疎開・特別攻撃隊 鹿屋基地・鹿屋戦争遺跡 沖縄戦・広島・長崎 原子爆弾・原爆ドーム 玉音放送・ポツダム宣言</p>

4 指導計画（全7時間）

過程	主な学習活動
見 通 か ず	1 戦時中と現在の様子に着目し、戦争と人々の暮らしについて学習問題を立てる。① 日本が戦った戦争は、どのような戦争だったのだろう。また、それによって人々の暮らしはどうなったのだろう。
	2 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ○ 戦争の様子 ○ 人々の暮らしの様子 ○ 子供の暮らしの様子
深 調 べ る	3 追究の柱について、個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 日本が戦った「戦争の様子」について、資料を基に調べる。② (2) 戦時中の「人々の暮らし様子」について、資料を基に調べる。③ (3) 戦時中の「子供の生活の様子」について、資料を基に調べる。④【本時】 (4) 日本が戦った「戦争の終わり」について、資料を基に調べる。⑤
ま と め る	4 追究の柱ごとにまとめたことを基にして、学習問題についてまとめる。⑥ 日中戦争・太平洋戦争により、日本は戦争中心の体制となり国民生活に大きな影響を及ぼした。日本国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終わった。
	5 戦争に関する記録を基に、当時の様子や人々の思いについて考える。⑦

5 本校の研究テーマとの関連 ※ _____下線部は、本単元の重点

(1) 研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成
～自己肯定感を高める取組を通して～」

(2) 研究の視点

視点イ②交流活動の工夫	視点ア③振り返り
資料から読み取ったことをまとめ、自他の考えを比較し、自分の考えを再構築したり、根拠のある考えをもつたりすることで、「認め合う力」を高めることができるようにする。	小単元を通して、学習した内容や方法に対する振り返りを継続し、小単元及び本時における自己の高まりが分かるようにしたり、「他者理解」を深めたりすることができるようにする。

6 実 際 (5 / 8)

(1) 目 標

戦争中の子供の暮らしの様子を学校や家庭での様子に着目して調べ、戦争が子供の暮らしに与えた影響について総合することで、戦時中の子供の暮らしの特色を表現する。【思・判・表】

(2) 自己肯定感を高める「他者のよさに気づき、互いに認める」手立て

視点イ②交流活動の工夫	視点ア③振り返り
① これまでの学習を根拠に調べる視点に基づく予想を立てることができるようにする。 ① 自分と友達の考えを比較し、調べた社会的事象を根拠にした考えであることを吟味するようにする。	② 振り返りで、他者との交流の視点を与えることで、他者理解にもつなげるようにする。

(3) 本時の流れ

1 前時までの学習を想起し、本時の学習のめあてを捉える。

T：前の時間にどんなことを学習しましたか。
C：戦争の影響が人々の暮らしにもあったことを学びました。
T：今日はどのようなことを学習するか、計画表で確かめましょう。
C：今日は調べる3時間目。子どもの生活を調べます。

子供たちは、どのような暮らしをしていたのだろうか。



2 資料を基にして、学校生活や家庭生活に着目して、戦時中の子供の様子を調べ、話し合う。



(1) 学校や家庭での子供の様子を調べる。

C：学校でも国の考えに沿って戦争にのこを教えられているんだね。
C：子供は軍人を敬い、将来は軍隊で働くための心構えを教わるんだね
C：家庭でも戦争に関係があることを教えられているんだね。
C：子供の遊びがチャンバラや戦争ごっこが中心だったんだね。

(2) 子供の生活の様子を調べたことをもとに話し合う。

C：学校でも家庭でも、戦争に関する生活をしているみたいだね
C：子供の生活は、暮らしと同じように戦争の影響があるみらいだね
C：戦時中ではあっても、子供らしい姿も見ることができるね。



3 本時の学習をまとめ、「わかった」「できた」を確かめ、本時の学習を振り返る。

(1) 本時の学習をまとめる。

子供の生活は、戦争一色の世の中で、国のために生きる暮らしをしていた。

(2) 「わかった」「できた」を確かめる。

T：子供の生活について、簡単な言葉に置き換えて説明しましょう。
C：子供は、戦争のことを学び、戦争ごっこをするなど、学校でも家庭でも戦争一色なので、戦争を支える生活をしようとしていた。

(3) 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。

C：A班と同じく、戦争中は苦しい生活をしていたことがわかった。
C：Bさんの発表で、苦しい中にも子供らしい姿を見ることができた。
C：学校と家庭とを比べることで、子供の生活全体を見ることができた



7 考 察

- 自分が調べた社会的事象を根拠に戦時中の子供の生活を話し合うなどの交流活動に取り組むことで、自他の意見を比較・吟味し、自班の考えとして再構築することができた。
- 他者との学びの視点にした振り返りをするすることで、自分の意見の再構築に関わった他者の意見に気づき、互いに認め合うことができた。他者理解につながる学びの深まりに気付いていた。